



ハートだより

香川県立高松支援学校
人権・同和教育部
2023年5月26日発行
第54号

「合わせるということ」

校長 北村 宏美

今年の体育祭のテーマは「シンクロ」。シンクロナイズドスイミング(※)を思い浮かべる人が多いと思いますが、複数のものがタイミングを合わせて動くという意味が、シンクロにはあるそうです。



※今はアーティスティックスイミングに変更

子どもたちの意見から「シンクロ」に決まったものの、どうみんなに伝えると分かりやすいかな・・・という事で、担当の先生が次のようなスライドを用意してくれました。



心をひとつにして、動きを合わせる。このイメージをもって、今、コツコツと演技練習に取り組んでいます。このハートだよりの発行日には体育祭は終わっていますね。みんなのシンクロが見事、完成しているかな～ (^ ^)

ところで、「シンクロ」を掘り下げていくなかで、いろいろ思うことがありました。

★ 相手に合わせるには、合わせる“自分”も見えていないといけないこと

自分がどう考えているのか、どう感じているのか、どう動こうとしているのか、“自分”をしっかりと理解しておくことで、相手に合わせたり調整したりできるのではないかな。

★ 誰かが誰かに合わせるだけではないこと

シンクロとは互いに作用し合うさまのことで、呼応し合う、響き合うとも言い換えられるそうです。なるほど、「～し合う」という関係性が大切なのだな。

自分を大切に、人を大切に、支え合い助け合う高松支援学校に、なんてぴったりなテーマ「シンクロ」なのでしょう！そう言えば、昨年度のテーマは「復活の体育祭 みんなの力を合わせよう」でしたね。子どもたち、上手に表現してくれるものです。



人権・同和教育部



今年度の行事予定



児童生徒の人権学習

人権・同和教育学習期間

前期 6月 5日～16日

後期 10月 2日～20日

田村文化センター文化祭

(11月 17・18日)

校内人権作品展 (11月 7日～)

高松市人権作品展(12月)

人権研修会・研究大会

四国地区人権教育研究大会

(徳島市 7月 12日～7月 13日)

田村文化センター職員現地研修会

(8月 25日)

香川県人権・同和教育研究大会

(レグザムホールほか 10月 24日)

悉皆「人権・同和教育研修」

(LGBT研修 11月 9日)

全国人権・同和教育研究大会

(大阪・京都・兵庫 11月 25日～26日)

☆人権・同和教育指導者研修会

(1月中旬)

PTA役員の方に参加をお願いしています。

人権だよりの発行

「ハートだよりの」(5月・10月・2月)



不合理で不当な同和問題（部落差別）

被差別部落は、江戸時代の身分制度で被差別民とされた人々が住んでいた地域であるとされています。(しかし、明治4年(1871年)に解放令が出されて、150年以上も前に身分上の差別はなくなっています。)

同和地区は被差別部落を指す行政用語ですが、厳密に言えば被差別部落と同じではありません。行政機関によって〈歴史的社会的理由により生活環境等の安定向上が阻害されている地域として同和対策事業が必要と認められた地区〉に限定されています。

被差別部落であった所でも同和地区と認定されなかったところ(未指定地区)が相当数存在しています。1993年の政府統計は、約100万人が住む全国4000カ所余りを〈同和地区〉としていますが、部落解放同盟は、全国約6000の地区を同和問題の対象地区だとしていて、そこに300万人近くが住んでいると推定しています。

2003年に同和対策事業が対象地区に限定されない一般事業になりました。そのため、行政上の〈同和地区〉は、20年前になくなっています。

それにも関わらず、同和地区に住んでいる・生まれた・父親や母親がその出身であるなどの理由で結婚や就職等で差別する、インターネット上で不当な差別的取扱いを助長・誘発する目的で特定の地域を同和地区であると指摘する、差別につながる身元調査をして出身地を調べるなどの事例がいまだに起きています。

同和問題とは、このような不合理で不当な人権侵害がいまだに解消されていないという、日本固有の人権問題です。

人権・同和教育部 谷口 泰司